

## 【98】豚の“大脱走”

戦争で農家に疎開していた遠い昔の思い出話です。

冬休みのある暖かい日の昼さがり、豚小屋に飼われていた一匹の豚が小屋から逃げ出しました。

農家のお嫁さんとお婆さん、そして私の母の女3人で追い回すのですが、豚の足も速くてすばしこく、女と侮ってか適当な距離をおいて逃げまわり、離れては小休止して人を小馬鹿にして眺めている感じです。

そこへ外出していた農家の主人が帰宅し、状況を見てとるや、やおら長い天秤棒を持ち出し、豚にそっと背後から近づいてそのケツを思いきり殴りつけたのです。

ビックリした豚君はピーッと悲鳴をして一目散にもとの豚小屋に走り帰りました。

屋敷から外へ逃げ出さなかったのが不思議でしたが、豚君にしてみれば、狭苦しい小屋からたまには外へ出て日光の下で散歩したかったのでしょう。

一部始終を見ていた私は、自分の父親が不在がちであまり意識していなかったのですが、一家の主人の貫禄というのを見せられたようで、子供心にも尊敬したものです。